

第5回 村岡新駅周辺地区まちづくり検討会議 議事要旨

日 時 ■ 2020年（令和2年）10月28日（水）午後2時から午後4時

場 所 ■ 藤沢市役所 分庁舎6階 6-3会議室

出席者 ■（敬称略）

会 長：柳沢 厚

副会長：中島 直人

委 員：（五十音順）相澤光春、饗庭功、加藤直人、竹村裕幸、額賀健一、林岡治、林喜太郎、堀敏之、松窪 昌幸（代理）、三上雅之、三ツ井幸子、渡場清治、渡辺敬介

オブザーバー：神奈川県、鎌倉市

事務局：都市整備課

傍聴人数 ■ 4人

議事次第 ■ 1 開会

2 議事

① 将来地区像を実現するための4つの重要テーマについて

② 推進方策について

③ まちづくり方針（素案）について

3 その他

4 閉会

配布資料 ■ 【資料1】村岡新駅周辺地区まちづくり検討会議の目的及び検討の流れ

【資料2】まちづくり方針（素案）を構成する重要4テーマと推進方策について

【資料3】村岡新駅周辺地区まちづくり方針（素案）案

議事概要 ■

① 将来地区像を実現するための4つの重要テーマについて

事務局より資料1を用いて、今後の進め方について説明。

資料2を用いて、第4回会議を踏まえて修正した4つの重要テーマごとの方針等について説明。

ご意見等（項目に分けて整理しています）

[重要4テーマ 全体について]

- 4つの重要テーマに肉付けがされ、コンセプトの骨子が見えてきた。
- 言葉も具体的になり、方向性がわかるようになった。
- 整理はされ、住まうと働くが両立するという部分もわかりやすくなった。
- 重要4テーマの各方針について、タイトルは良くなったがその下の説明が分かりにくい部分があるので再度精査して欲しい。
- ポストコロナをどう捉えるのかという視点も持って、全体を見返すことも必要ではないか。
- ここまで出来て見返してみると、みどりや文化はまちの基盤なので、三角形の中の順番が下から2番目でも良いのではないか。
- 項目が盛り沢山で、駅前のこのスペースにどこまで盛り込めるのか。
- コンパクトな地域の中で色々なテーマのレイヤーが重なる構造であることを示せると良い。
- 「尖る」という部分が最終的にどういったものを指すのか、どう表現されるのかはもう少し考える必要がある。
- 「実現に向けての取組み」に「～が必要」と記述しているが、解決策の記載がない。表現の仕方を少し見直したらどうか。
→重要テーマでの記述を受けて、推進方策の部分に受ける形にしている。
- 都市拠点の一つとして、最先端の研究開発拠点としての実績があるのでその方向性と重要4テーマの融合した計画をこのまま進めて欲しい。

[重要4テーマ (1)創造的な場づくりについて]

- 導入機能がまだ従来の箱モノが多くなっているが、外での活動の豊かさがもう少し表現できると良い。外での豊かさが、これからの研究・開発の場においては必要なのではないか。
- 創造的なまちづくりにおいてもスポーツも必要ではないか。スポーツの社会的実装の場にする等、スポーツの活用・交流によりまちの活性化に繋げることはどうか。
- 例えばヘルスケア分野と言っても裾野が広いのにクリエイティブ産業という表現は焦点がぼやける感じがする。
- イノベーションという視点からも、事例写真「世界から選ばれる」を表現できるようなものにしたら良いのではないか。

- 村岡地区が便利に魅力的になるだけではなく、コロナ禍により人々の意識の変化などもある中で、「全市に対する効果」で整理をしているが、いかにこの事業が藤沢市民を幸せにするか、その為にも市の体力をもたらすかということを考えなくてはいけないと思った。

[重要4テーマ (2)緑や文化豊かなまちづくりについて]

- 緑が多く触れられているのは良いが、維持管理が重要でありきちんと取り組んでほしい。

[重要4テーマ (3)新しい交通結節点づくりについて]

- 湘南深沢駅から新駅までモノレールを延伸する考えはないのか。
- 以前、モノレールの職員に新駅まで繋いでどうかと提案はしてみた。
→モノレールについては、民間事業者なので、必要性や事業費の観点から現時点で延伸は難しい。その代わりに新しいモビリティで繋いでいく。
- 駅だけに人が留まらないように、交通という視点で、南北の自動車の行き来をどうにか解決できないか。
- 現在の跨線橋は耕運機が通れば良いという基準で作られたと聞いている。信号が変わるまでに5分くらい待つ。
- 公民館が移転すると南北を横断する必要が出てくるのでその事情も考えて欲しい。
→新駅ができることで新たなモビリティを導入し、駅南北も含め周辺に繋ぎ、より多くの方が快適に移動できるようになることを目指しており、自動車は現ルートで対応したい。一方で、徒歩や自転車での南北移動には力を入れていく。
- 新しい交通結節点とはどういうものかに非常に関心がある。
- 駅が目的地になり、一日を過ごせるようなまちづくりを考えたい。

[重要4テーマ (4)安心・安全なまちづくりについて]

- 安心・安全なまちづくりでも、ここでは浸水が課題となっており、もう少し地盤に関する記述や写真を加えたらどうか。

[その他]

スポーツの取り扱い

- 導入機能イメージの中にもう少しスポーツを表現して欲しい。
- スポーツという部分では、新しく建設する公民館には体育館を計画しており、まちづくりで貢献・連携ができる。

村岡公民館との関係性

- 村岡公民館が隣接地に移転することが決まっているが、具体的な記載がない。まちづくりとして連携するべきではないか。
- 公民館は交流の場であり、広がる創造の一端を担う機能として記述するべき。
- 公民館については位置づけを記載していく。

今後の取組み

- 駅前の事業者としての貢献・連携を今後検討したい。
- 特に交通結節点づくりの方針を踏まえて、出来ることを検討していきたい。
- 今後の実現に向けて、経済団体等との意見交換・連携を担っていきたい。

② 推進方策について

事務局より資料 2 を用いて、「7まちづくりの実現に向けた推進方策」について説明。

ご意見等（項目に分けて整理しています）

- 推進方策で掲げていることを時間軸で示したものがロードマップ（案）となるが、事業の計画段階から、事業を終えて、街びらきをした後まで矢印が続いており、このことが「つかう」ことをみすえて「つくる」をテーマとしている事業の特徴だと考えている。

③ まちづくり方針（素案）について

事務局より、資料 3 を用いて、まちづくり方針（素案）案について説明。

ご意見等（項目に分けて整理しています）

- p 10 で新たに追加した考え方③の「可変性のある空間整備」は具体的にどうしていくのか。
 - 短い時間軸での可変性は、その時々々の需要に合わせた使い方をする取組みのこと、長い時間軸では機能が変わったときに更新できる幅を持たせるなど、色々な時間軸を見据えてまちを作っていきたい。
- 大規模な建物ではなく、細やかなボリューム感が可変性においては重要となってくる。
- 考え方③の「可変性のある空間整備」にも模式図があった方が良い。
- P9 の導入機能イメージにスポーツ施設の写真を入れて欲しい。
- 駅前の限られたスペースに大きなスポーツ施設を入れるのはどうなのか。他の場所でやって欲しい
- CO2 削減（脱炭素社会）について政府が発言をしたが、藤沢市としてどんなアクションをしていくのか。新しいまちづくりにも先進的に織り込む考えはあるのか。

- 政府の発言があったばかりなので、まだ具体的にいつまでにどうするのかの検討は出来ていないが、現在改定作業をしている市の総合指針では、20年先の基本目標を示すことから、CO2削減・エネルギーの地産地消についても書き込んでいくことになるだろう。

まとめ

事務局から「会長預かりで素案をまとめ、12月の議会で報告したい。その後パブリックコメントを経て、年度内の策定を目標にしている。」と説明を行い、「村岡新駅周辺地区まちづくり方針（素案）」の修正及びとりまとめについて、会長・副会長預かりとすることについて、了承が得られた。

以 上